

ドルチェ・クラシック・チャンネルにて

加藤元章、清水理恵のソロ、デュオ、室内楽などを配信しています！

インターネットで「ドルチェ・クラシックチャンネル」を検索。会員登録(無料)をすると様々なレコーディングを購入できます。(https://doce-classic-ch.com/)

加藤元章

◆ プロジェクト：“The Solos”

第1弾は「ドビュッシーから武満へ」と題し、20世紀の主要なソロ作品を網羅した貴重な作品集です。

◆ プロジェクト：“The Ultimate Etudes”

難度の高いエチュードを余すところなく全収録するという、ゴージャスなプロジェクトです！すでにカルク=エーレルト、ロレンツォ、フェルステナウなどが配信されています。

清水理恵

◆ 清水研作「日本の歌・世界の歌」vol.1

さくら、荒城の月、ロンドンデリーなど、長く愛され続けた「日本の歌・世界の歌」を作曲家・清水研作がメロディーの持つ普遍的な美しさを、時にはモダンな響きに包みさらなる味わいを加えることによって、幻想の世界を表現。楽譜はドルチェ楽器、村松楽器、新潟ヤマハで販売中。伴奏のみのマイナスイン音源も配信されています。

加藤元章&清水理恵によるクーラウ・プロジェクト

◆ クーラウ・プロジェクト

フルートのための室内楽作品を数多く残したクーラウ。その作品を網羅するという壮大な企画です！現在は全24曲あるデュオ作品全曲のレコーディングが進行中。すでに作品10、作品39、作品80が配信されています。

ヴェリタス・ミュージック・チャンネルにて

加藤元章、清水理恵による「邦人作品の歩み」の動画

清水研作のオーケストラや室内楽作品の動画を無料配信しています！

インターネットで「ヴェリタス・ミュージック」を検索。

http://veritas-music.com/ の画面から Veritas Music Channel にアクセスすると様々な動画を無料で視聴できます。

Flute Duo Concert

加藤元章 & 清水理恵 フルート・デュオコンサート
ピアノ：野間春美

<Program>

◆ 清水研作：宇宙との対話II

K. Shimizu: Dialogue with the Universe II (清水、加藤、comp.清水研作)

◆ メンデルスゾーン：ロンド・カプリチオーゾ ホ長調 作品14

F. Mendelssohn: Rondo Capriccioso in E major, Op.14 (清水、野間)

◆ フォーレ：ヴァイオリン・ソナタ イ長調 作品13

G. Fauré: Violin Sonata in A major, Op.13 (加藤、野間)

◆ ドップラー：アンダンテとロンド 作品25

F. Doppler: Andante and Rondo, Op.25 (加藤、清水、野間)

2021.2.11(Thu) 第2部 4:00pm 開演

会場：新潟市民芸術文化会館 スタジオA

主催：ヴェリタス・ミュージック

協力：株式会社ドルチェ楽器 (パウエル・フルート・ジャパン)

村松楽器販売株式会社

◆清水研作：宇宙との対話Ⅱ

『宇宙との対話Ⅱ』は、京都の随心院を訪れた時にインスピレーションが湧いて描いた作品です。随心院は小野小町ゆかりの寺で、彼女がまさにそこにいるような印象でした。彼女が宇宙にいて我々と会話するというイメージの作品となっています。フルート2本とコンピュータが作り出す音楽の融合から、死後の世界と現実の関連性を感じていただければありがたいです。(清水研作)

◆F. メンデルスゾーン：ロンド・カプリチオーゾ 作品 14

幼い頃から天才として知られたメンデルスゾーン(1809-1847)は、音楽以外にも5カ国の言語を理解し、一方で、水彩画も数多く残している。また、死後、音楽界からほとんど忘れ去られていたバッハの作品を復活させた事でも知られる。この曲の原曲は、メンデルスゾーン 21歳の時のピアノ独奏曲で、メンデルスゾーンのピアノ曲の中でも広く親しまれている作品。

◆G. フォーレ：ソナタ 長調 作品 13

近代フランス、とりわけ19世紀と20世紀の境目のベル・エポックと呼ばれる時代の作曲家ガブリエル・フォーレ(1845-1924)は、ニデルメイエルが設立した「古典と宗教の音楽学校」で学び、ルネサンス音楽やグレゴリオ聖歌の素養を身に付け、メロディーは旋法的で、通常の和声進行から複雑な半音階的進行への移行で変幻自在な転調を成し、気品に満ちた美しさと優しさ、憂いに満ちた音楽が多い。この曲は、フォーレの第1期の作品で、その中に後期ロマン派の感情表現が強く感じられる。4つの楽章から成り、当時の新進ヴァイオリニスト、ポール・ヴィアルドーに捧げられた。

◆F. ドップラー：アンダンテとロンド 作品 25

19世紀のフルートの名手フランツ・ドップラー(1821-1883)は、ハンガリー(当時はオーストリア帝国領)に生まれ、ハンガリーのメロディーを駆使したフルート曲を多く作曲、とりわけ、弟のカールとのフルート・デュオの作品が多い。中でも親しまれている曲がこのアンダンテとロンドで、フルート2本が同時に奏でた時に響く、倍音をともなった独特の音色が華やかに、あるいは甘く響く曲で、オペラの重唱のように対話を繰り返し、叙情的な中に華麗なテクニックを散りばめた名曲。後半のロンドはドップラーお得意のハンガリー風のメロディーが軽快に展開する。

(加藤元章)

<Profile>

加藤元章 (Motoaki Kato) フルード

桐朋学園大学で森正氏に師事。1978年にパリ国立高等音楽院に入学、ジャン＝ピエール・ランバル、ミシェル・デボストの両氏に師事し、82年プルミエ・プリ(一等賞)で卒業。ブダペスト、プラハの春国際コンクール入賞、アンコーナ、マリア・カナルス、ランパル国際コンクールで2位、マディラ国際フルートコンクール優勝。87年サントリーホール、92年東京芸術劇場でのリサイタル、97年サントリーホールでのコンチェルト・

リサイタルのライヴCDの他、2つのCDシリーズ、“Motoaki KATO プレミアムセレクション”と“アート オブ エクササイズ”16タイトルをリリース、その中から現代作品集Ⅰ「夜は白と黒で」は、平成6年度の文化庁『芸術作品賞』を受賞。2001年にはムジック・フェライン(ウイーン楽友協会)にて日本人フルーティストとして初めてリサイタルを行う。2005年、ユン・イサン(尹伊桑)のフルート協奏曲を、韓国初演。2019年からは配信アルバム制作を開始。フルーティスト清水理恵氏との共演で、フリードリヒ・クラーウのフルート2重奏曲24曲の完全収録を目指す「クラーウ・プロジェクト」、難易度が高い練習曲を収録する「ジ・アルティメット・エチュード」、独奏曲を時代別に収録する「ザ・ソロ」の3つのシリーズの録音が同時進行中。現在7タイトル(CD9枚相当)を配信している。

清水理恵 (Rie Shimizu) フルード

桐朋学園大学卒業後渡米。ボストン大学大学院にて当時のボストン交響楽団首席フルート奏者ドリオ・ドワイヤーに師事。同大学院修士課程修了。在米中よりソリスト・室内楽奏者として幅広く活動する。帰国後「現代室内楽コンクール競奏Ⅱ」第3位及フォルテ・ミュージック賞受賞。フランス、アメリカ、中国の音楽祭やコンヴェンション、作曲家会議、大学等に招かれ、新曲初演やコンサート、マスタークラスなどを行う。2012-18年リサイタル・シリーズ「バッハ：無伴奏チェロ組曲に魅せられて」全6回を企画開催。2018年秋よりリサイタル・シリーズ第2弾「バッハ：ヴァイオリン・ソナタ&パルティータとともに」を始動した。ドルチェ・クラシックチャンネルにて、加藤元章氏とクラーウのデュオ、清水研作「日本の歌・世界の歌」など様々な配信を行う。CD「Three Water Colors」、清水研作作品集「海」、「日本の歌・世界の歌」。ヴェリタス・ミュージックアカデミー主宰。桐朋芸術短期大学及び新潟大学講師。中国綏化音楽院客員教授。http://shimizu-rie.com/

野間春美 (Harumi Noma) ピアノ

桐朋学園大学音楽学部音楽科ピアノ専攻を経て同大学研究科を修了。第5回友愛ドイツ歌曲コンクールにおいて優秀伴奏者賞受賞。第7回日本室内楽コンクール入賞。在学中より室内楽をはじめとするアンサンブルピアニストとして活動を始めNHK交響楽団や東京交響楽団のメンバーと数々の演奏会で共演。NHK-FM「土曜リサイタル」「FMリサイタル」BS-TBS「日本名曲アルバム」に出演するほか学校音楽教材などのレコーディングに多数携わる。現在、桐朋学園大学嘱託演奏員、新国立オペラ研修所ピアニストを務めている。

清水研作 (Kenaku Shimizu) 作曲

新潟市生まれ。ボストンのハーバード大学大学院博士課程に特待生として招かれ博士号取得、作曲と音楽理論の講義を持つ。1990年ヴェニエアフスキ国際作曲コンクールにて満場一致の優勝。96年フランス国立音響・音楽の探究と調整 mp 研究所(IRCAM)に招聘されコンピュータ音楽の研鑽を積む。国内各地をはじめ、サントリーホール10周年記念、テレビ朝日開局55周年記念、日本フルート協会主催フルートコンヴェンション、ドイツのルール国際ピアノ・フェスティバル、ブレーメン音楽祭、イギリスのライデール音楽祭、オーストラリアのキャッスルメイン音楽祭、韓国の統営、フランスのトゥールーズ等、世界各地にて様々な作品が演奏されている。2012年ドイツで初演された南西ドイツ・フィルハーモニー交響楽団委嘱による「レクイエム・フォー・フクシマ」、2019年ベルリン・フィルハーモニー室内楽ホールにて初演された、弦楽オーケストラのための「却来」等いずれも好評を博している。コンピュータを用いた新たな表現方法も追求している。新潟大学教授。https://kensakushimizu.com

◆*Kensaku Shimizu: Dialogue with the Universe II for 2 flutes and computer*

“Dialogue with the Universe II” is a work that inspired me when I visited Zuishinin in Kyoto. Zuishinin is a temple related to Ono no Komachi, and I had the impression that she was right there. It is as if she was in space and kept talking to me. I would appreciate if you could feel the connection between us, transcending time and space. (Kensaku Shimizu)

◆*Felix Mendelssohn: Rondo Capriccioso in E major, Op.14*

Mendelssohn (1809-1847) was known as a man of many talents besides music. He understood five different languages and left many watercolor paintings behind. He was also known for reviving Bach's works, that were almost forgot by the music world after his death. This piece was composed when he was at the age of 21, and originally written for the piano solo. It is one of the most popular piano pieces of Mendelssohn.

◆*Gabriel Fauré: Violin Sonata in A major, Op.13*

Gabriel Fauré (1845-1924), a composer of modern French music, especially the border between the 19th and 20th centuries, called Bell Epoch, studied at the "Classical and Religious Music School" founded by Nidermeyer. He studied Renaissance music and Gregorian Chant. As a person with the background of the sacred songs, the melody of his music is modal, and the transition from the normal harmony progression to the complex semitone progression makes a changeable modulation. Fauré's music has beauty, kindness, sorrow, and full of elegance. This sonata is Fauré's first work, which reveals the emotional expression of the late Romantics. It consists of four movements and was dedicated to the up-and-coming violinist Paul Viardot at the time.

◆*Franz Doppler: Andante and Rondo, Op.25*

Franz Doppler (1821-1883), 19th century flute master, was born in Hungary (Imperial Austrian territory at that time) and composed many flute pieces. with his brother Karl and Many of these pieces are especially composed for the flute duos, made full use of Hungarian melodies. Among his compositions, the most popular piece is “Andante and Rondo”. In this piece the overtones resonates gorgeously and sweetly, when two flutes are played at the same time. The splendid techniques intersperse in this masterpiece, while adding lyrical repeating dialogue like an opera singing. In Rond, Doppler's favorite Hungarian-style melody develops swiftly.

(Motoaki Kato)